

有機育苗培土の作成は窒素量の確認を！

有機栽培用育苗培土の作成に当たっては、堆肥や有機質肥料等を用いてある程度の有機態窒素を添加すると苗の生育が良好となります。

《背景》

市販の有機栽培用育苗培土に果菜類を鉢上げすると苗の生育が停滞し、ほ場に定植した後の初期収量が低下する事例が見られました。そこで、果菜類の有機栽培用育苗培土の作成を検討しました。

《試験方法・結果》

試作培土は、落ち葉堆肥と埴壤土（田土）を体積比7：3で混和したものに、肥料として自家製発酵肥料を加えて10日間堆積して作成し、その培土にキュウリ苗を鉢上げしました。

試作培土のキュウリ苗の新鮮重は、市販有機栽培用育苗培土より優り、通常栽培用育苗培土と同程度となりました（図1、2）。有機栽培用培土で生育が劣った要因は、無機態窒素含量が著しく少ないことによる窒素不足と推察されました（図2）。

有機栽培の育苗時に一定の生育量を確保するためには、培土中にある程度の窒素を添加する必要があると考えられました。

今後、作物や作型に合った培土の作成を検討します。



図1 キュウリの生育
(鉢上げ21日後)

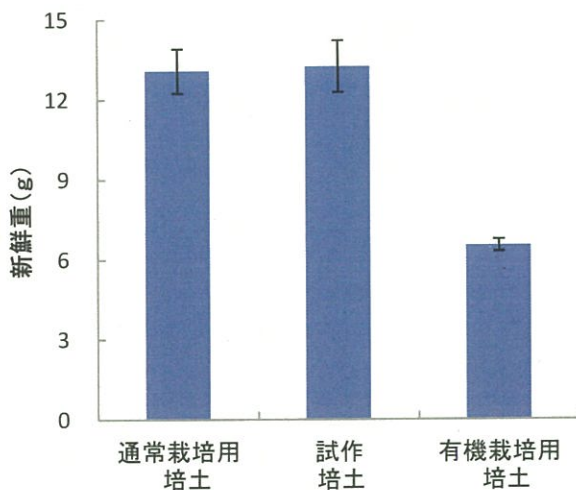


図2 キュウリの新鮮重

※通常栽培用培土は化成肥料入り

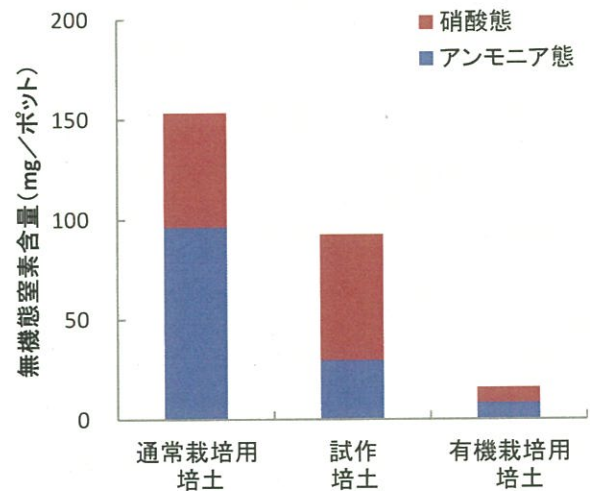


図3 培土の無機態窒素含量

問い合わせ先: 資源環境研究部土壤環境科(朝木隆行)、栽培研究部野菜科(奥野かおり)

TEL 0853-22-6984 E_mail: nougi@pref.shimane.lg.jp